

年間入込観光客120万人を目標に

——観光まちづくりの施策の柱をハイキングとされているのは、どういう理由からなのですか。

田島 越生町は、首都50km圏にありながらも豊かな自然に恵まれていて、関東三大梅林に数えられる越生梅林や五大尊つつじ公園、あじさい山公園など、花の名所がたくさんあります。黒山三滝で知られる県立黒山自然公園もありますし、観光を楽しんでいただけの資源は十分、持っているのです。けれども、観光地としての基盤や事業の展開が整っていないんですね。

越生の町のこうした自然を楽しんでいただくには、ハイキングがいちばん適しています。もともと、越生町周辺は昔からハイカーがたくさん訪れるエリアです。周囲の山は、ご家族連れや年配の方でも気軽にハイキングを楽しんでいただける低山で、しかも駅から5分です山に入ることができます。

現在、ハイキングを主軸に観光地と



豊かな自然がそのまま残る越生町。

INTERVIEW 「ハイキングと観光のまち」を目指して

「武蔵おごせハイキング大会」を東武鉄道と共催する越生町は、「観光のまちづくり推進プロジェクト」に取り組んでおり、その具体的な事業に「ハイキングの推奨」と「ウォーキング等開催」を掲げている。ハイキング、ウォーキングを軸に、観光地としての整備を進める田島公子町長にお話を伺った。

——プロジェクトの具体的な施策をお聞かせいただけますか。
田島 越生の山は先ほども申しあげましたように、梅にはじまり桜、山吹、つつじ、あじさいなど四季の花が咲きますので、

里にも菜の花を植えるなどの整備を進めています。

ハイキングコースの整備も進めています。特に大会前などは1カ月前から、職員が日常業務の合間に草刈りをします。職員全員が「草刈り隊」なんですよ（笑）。倒木などがあるときは、チェーンソーを持って行って伐採するのも職員の仕事ですね。コースには、ハイカーの方に分かりやすいように、指導標の設置を進めています。指導標は、立てた時代によって形も素材もばらばらだったのですが、今は景色にな

じむように木を使ったもので統一するようにしています。

また越生町は梅とゆずが特産なのですが、お土産品になるようにと、第三セクターで商品開発を進めていて、うめジュース「元氣百梅」が好評です。平成22年7月には、ゆずジュース「おごせゆず之介」を発売いたしました。——サイクリング向けの整備も進められていて伺いました。

田島 サイクリングのコースマップをつくったほか、越生町観光センターと越生自然休養村センターにサイクリス



越生町長

田島公子 Kimiko TAJIMA

ト休憩所を設置しました。専用の駐輪場や空入れ、パンク修理セットも備えてあります。公共施設にこうした駐輪場を整備したのは、周辺では越生が初めてだと思いますね。

電車でいらつりやつて町中を歩かれる方、自転車であられる方、それぞれに便利な場所をつくり、町を楽しんでいただけるよう、できる限りのことをしていきたいと思っています。

——観衆の増加を目標にされている越生まつりは、どういうおまつりですか。

田島 越生神社の夏まつりです。以前は「天王様」と呼ばれていました。1800年代、文化・文政の頃に始まったと伝えられる由緒あるおまつりです。町制100周年を機に越生まつりと称して7月の第4土・日曜日に行われるようになりました。夕方から越生6町の6基の山車の引き廻しが始まり、各町の囃子連が越生囃子を披露します。

越生は古い町で、絹織物や林業で栄えた歴史を持っています。町中には、当時の蔵が残っており、国の登録文化財に指定されたものもあります。太田道真・道灌父子ゆかりの龍恩寺をはじめ、平安時代の仏像や中世の板碑もたくさん残っている。そうした町に眠っている財産を上手に活かして、観光のまちづくりを進めていきたいと考えています。

鉄道は町にとって、なくてはならない存在です。

いるところなんです。町中を、ボランティアガイドが解説しながら歩くツアーなどは、面白いと思ってもらえるのではないでしょうか。町民に勉強してもらってガイドができるようになれば、そうしたアイデアも実現していくはずなんです。そのために、町民を対象にした史跡めぐりを行っているところです。まずは町民からと、取り組んでいます。

——ハイキングを

しながら史跡めぐりができるといことですね。

田島 ええ。平成23年9月に新飯能「寄居線」というバイパスがつながると、町中を走る大型車の減少が予想されています。それによって、観光客の皆さんもさらにゆつくり安全に歩ける町になると期待しています。

東武健康ハイキングで

たくさんの方に町を知っていただく

——越生町は「健康づくりのまち宣言」をされていますね。



大人気で完売した郷土料理のひもかわうどん。

田島 平成4年に制定しました。町民の健康づくりを奨励して、1時間前後のウォーキングコースを24つくり、「ヘルスロードマップ」を作成して町民に配布しています。歩くことは一人でもできるし、好きな時にできる。それにお金もかからないでしょう（笑）。ハイキング大会にも皆さん、積極的に参加されています。

——ハイキング大会には、どのようなものがあるのですか。

田島 平成22年は、町主催では1月に「七福神めぐりハイキング」と4月に「花の里おごせ健康づくりウォーキング大会」を開催しました。東武健康ハイキングでは、「越生七福神めぐりハイキング」「越生梅林をめぐる里山ハイキング」「あじさい街道をめぐるハイキング」の三つを開催いただきました。そして最後を締めくくったのが、東武鉄道と共催の「武蔵おごせハイキング大会」です。東武鉄道が主催するハイキング大会はどれも参加人数が多くリピーターが占める割合も大きいんですよ。県内のみならず神奈川や千葉など、多方面から参加される方が多いので、越生町のよさを知っていただけるいい機会だと捉えて

います。

——武蔵おごせハイキング大会のゴール地点では、毎回、出店などを行っていらつしやるのですか。

田島 当初はハイキングの運営だけだったのですが、賑やかな方が参加者に喜んでいただけますから、数年ほど前から農家の方やお店の方に出たいたでいて特産の梅を使った商品や野菜、食事を販売するようにしました。今回初めて出品した郷土料理のひもかわうどんが大人気で、用意した300食も午後1時前に完売してしまいました。23年は、もっと工夫したいと考えています。参加者の皆さんはゴールする、すぐ帰られてしまう方が多いのですが、ハイキングの後にゆつくりできるような施設や店舗を増やして、紹介していきたいと考えています。

——観光のまちづくりにおいて鉄道には、どのようなことを期待されますか。

田島 駅は町の玄関口ですし、やはり鉄道は町にとって、なくてはならない存在です。たくさんの方に電車に乗って越生にお越しいただく——ハイキングと観光のまちづくりを実現していくためには、東武鉄道の存在が欠かせません。町民にもまちづくりに参加したいという人が大勢います。そうした町民との協働で、東武鉄道の力を借りながら、まちづくりを行っていききたいと思っています。観光の「力」がつけば、越生の町自体がもっともと元気になるはずだと考えています。